

委員会視察記録

委員会名	文化観光委員会
期間	令和5年7月24日～25日
参加者	委員長 鈴木 啓嗣 副委員長 大石 健司 副委員長 杉山 淳 委員 加藤 祐喜 委員 杉山 盛雄 委員 良知 淳行 委員 四本 康久 委員 遠藤 行洋 委員 桜井 勝郎
視察先	1 日本平周辺施設（久能山東照宮・日本平夢テラス・日本平ホテル）（静岡市清水区 ほか） 2 静岡県富士山世界遺産センター（富士宮市） 3 御殿場プレミアム・アウトレット（御殿場市） 4 MERIDA X BASE（伊豆の国市） 5 沼津市総合体育館（沼津市）

視察の概要

7月24日（月）

■ 日本平周辺施設

・久能山東照宮

<概要>

久能山東照宮は、観光地日本平の周辺に位置する、日本で徳川家康を祭った最初の神社である。

徳川家康にまつわる地であり、現在も楼門、国宝に指定された社殿などが残存していることなどから多くの観光客が訪れている。特に今年はNHK大河ドラマで徳川家康が題材に取り上げられているため、訪れる観光客は増加している。

日本平山頂とロープウェイで結ばれていて往来できることから、久能山東照宮では日本平夢テラスや日本平ホテルと連携しながら日本平周辺の観光振興のための取組を展開している。

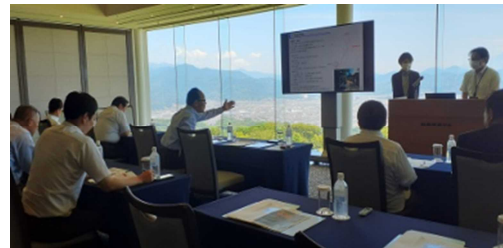
・日本平夢テラス

<概要>

日本平夢テラスは、富士山や清水港をはじめとする日本平周辺の景色を望める県有展望施設である。

平成30年11月の開館後、令和3年11月に来館者200万人を達成した。現在は令和5年度来館者50万人達成を目標に指定管理者によって管理運営されている。

観光振興として、ラウンジでの県産食材を使用したメニューの提供、施設内での久能山東照宮の歴史や展示品の紹介、久能山東照宮と合同でのPV作成等に取り組んでいる。また今年8月からは、来訪された高齢者等が駐車場



との間を往来しやすくするため、令和6年度からの本運行を目指し、費用の寄附を募りながら、電動カートの実証運行に取り組んでいく。

<主な質疑応答>

Q 電動カートの費用を募る乗客への寄附依頼はどのようにして行うのか。

A カート内に寄附用の箱を設置し募っていく。なお寄附募集期間は試運転期間内を想定しており、本運行開始後については改めて検討する予定である。

Q 外国人観光客を誘客する際の課題は何か。

A 最大の課題は日本語が分からない外国人観光客への説明方法である。外国人観光客に静岡の魅力をどのようにして伝えていくか日々苦慮している。

・日本平ホテル

<概要>

日本平ホテルは、観光地日本平の山頂に位置し、富士山や駿河湾の眺望を提供するホテルである。

平成24年のホテル建て替え時に日本平全体のコンセプト、風景美術館を考慮して建物位置を従前から少しずらしたため、現在、ホテル来訪者は左側に富士山、右側に駿河湾や伊豆半島等といった日本画の構図と同様の構図の景色をホテルから望むことができる。ホテル客室80室中60室からは富士山が見えるようになっている。

さらに、静岡の迎賓館として国際会議や外国からのVIPなどを受け入れている。

日本平の観光振興については、周辺施設、地域企業と連携し、日本平1日プランやFDAチャーターフライトといった商品を開発している。

来訪者リピーター化の取組として6つあるホテル内レストランで富士山が見えない時でも楽しめるよう努めた結果、リピーター率は30%を超えており、ホテル業界で良いとされる20%を超える水準に達している。

<主な質疑応答>

Q 1日プランはどのくらい利用されているか。

A 利用者数のデータは持ち合わせていないが、連日多くの方に利用していただいていると認識している。

Q 人材確保の課題は。

A 従前は従業員の人的つながりの利用などで対処してきたが、近年は経費をかけて人材確保に取り組まざるを得なくなっている。県議会でも是非とも人材確保施策を検討していただきたい。

■ 静岡県富士山世界遺産センター

<概要>

静岡県富士山世界遺産センターは、平成25年6月にユネスコの世界文化遺産に登録された「富士山―信仰の対象と芸術の源泉」を後世に守り伝えていくための拠点施設である。

「永く守る」「楽しく伝える」「広く交わる」「深く究める」の4つの柱を事業として、多くの方に歴史、文化、自然など多角的に富士山の魅力を紹介するため、常設展示のほか富士山を中心



とした企画展や公開講座の開催、「富士山学」の浸透などに取り組んでいる。
現在、施設には県外から学校単位で訪れる生徒の姿も多く見られる。

<主な質疑応答>

Q 現在の来館者数の状況は。

A 令和4年度は年間12万人であった。コロナ前の年間30万人程度からすると減少している。

今年度は回復傾向にあり、現時点で前年同時期比1.35倍の来館者数があるので、順調に行けば年間16万人程度に達すると見込んでいる。

Q 外国人来館者数の状況は。

A 今後インバウンドの回復に伴い増加すると考えている。清水港に寄港するクルーズ船の関係で当館への問合せも増えてきている。ただインバウンドは円高訪日経費が高くなると来訪されない傾向にあるので注意も必要と考えている。

Q 「富士山学」の地域への浸透状況とセンターの役割は。

A 「富士山学」については毎年3月に書籍を出版しており、令和5年3月には3回目の出版を行った。書籍出版を通して「富士山学」の普及に努めている。

また、富士山の位置との関係から県東部に比して県西部では県民の富士山への馴染みがいま一つである。このため11月23日に県西部で「富士山のふもとに生きる～金原明善と富士山麓の生業」と題したセミナーを行うなど富士山の周知に取り組んでいく予定である。

7月25日(火)

■ 御殿場プレミアム・アウトレット

<概要>

御殿場プレミアム・アウトレットは、三菱地所・サイモン株式会社が国内10か所で展開するアウトレットモールの1つであり、平成12年に御殿場市内に開業した日本最大のアウトレットである。物販店のほかホテル、日帰り温泉施設、プレイグラウンドも併設し、ショッピングだけでなく食、遊び、癒やしのプレミアムな体験も提供している。



地域との連携にも取り組み、静岡県、小山町、御殿場市、山中湖町、箱根町の各観光協会に加盟した活動、御殿場市及びエコツェリア協会と締結した3者間包括連携協定を基づく合同求人説明会の開催、アウトレット内へのふるさと納税自動販売機やブックシェアリング&フードバンクブースの設置、SDGs月間のイベントの実施などに取り組んでいる。

観光振興については、富士山エリアや箱根エリアの近隣施設やゴルフ場とタイアップしながらアウトレット及び近隣地域への集客に取り組んでいる。また高速バス会社とも連携し、東京都、神奈川県、山梨県及び静岡県の主要駅等とアウトレットの間を高速バスで結ぶことで交通アクセス向上に取り組む、将来的には交通のハブとしての機能を通じて来訪者が増えることを目指している。

<主な質疑応答>

- Q 近隣施設との連携として、どのようにタイアップしているのか。
- A 近隣連携施設の利用者に当施設の割引を案内する形で行っている。
- Q 今後の課題は。
- A 来訪者のリピート率が高くなく、多くの方は年1から2回程度の来訪に留まっていることと、施設の体験価値を高めていくことである。このため交通のハブとして当施設から様々な方面に向かうことができる形を構築し、当施設を目的地としない方にも訪れてもらえるようにすることを検討していくとともに、買い物施設以外の価値構築にも努め、より様々な方に来訪してもらえるよう取り組んでいく。
- Q 従業員の確保状況は。
- A 従業員不足は課題となっている。現在地元の御殿場市を中心に従業員約3,500人、パートを含めると約4,000人を雇用しているが、首都圏においても人材確保のための活動を展開している。

■ MERIDA X BASE

<概要>

MERIDA X BASEは、メリダジャパン株式会社の国内取扱車種を展示・レンタルする世界最大級、日本国内で唯一のサイクリングハブ施設である。MERIDA国内最新ラインナップのテストドライブとレンタル、自転車の楽しさを体験しながらスキルアップを目指すプログラムの提供、アカデミーガイドツアーやツーリングの実施、屋内バンプトラックをはじめとする設備の提供、今年4月からのキッズクラブの開校等に取り組み、東京2020オリンピック・パラリンピックの自転車競技開催会場近くにおいて、レガシー承継のためのサイクルツーリズムを通じた人的交流活動を展開している。



<主な質疑応答>

- Q 開催されているガイドツアーの総走行距離はどのくらいか。
- A 基本的には約20キロで設定している。ただし、顧客からのニーズによっては100キロ程度になることもある。ツアーは、基本的には朝当地を出発し、午後3時過ぎに戻る形で設定している。
- Q 日本国内に同様の施設はあるか。また国外ではどうか。
- A オランダにモデルとなった施設はあるが、一般来訪者向けではない。一般来訪者向けの施設は世界中でも当施設だけである。訪れた一般の方は、展示されているスポーツバイクに直接触れることで自分の体に合うスポーツバイクのサイズを確認できる。なおサイズ確認後に購入希望がある来訪者には、居住地の近くのスポーツバイクを取り扱うショップを案内している。
- Q 来訪者はどの程度あるか。
- A 新型コロナ感染症拡大前は200人から300人であったが、コロナ禍で激減し、その後現在は100人から200人までに回復している。

■ 沼津市総合体育館

<概要>

沼津市総合体育館は、令和5年3月1日に開館した市立体育館である。

施設の管理は、令和19年度まで運営業務受託者である美津濃㈱が行うこととなっている。

3階建ての体育館には、武道場、弓道場、卓球場、多目的室、スポーツアリー

ナ、多目的アリーナ、トレーニング室、多目的スタジオ、観客席、ランニングコース（1周220メートル）が整備されている。このうち2階のスポーツアリーナは、面積2,257平方メートル、天井高12.5メートル、観客席（3階）2,000席であり、プロバスケットボールの公式試合を開催できる規格となっている。

当体育館の整備は、沼津市の香陵公園周辺整備PFI事業の一環の中で隣接する市民文化センター、駐車場の整備とともに行われた。このため体育館2階には立体駐車場とつながる通路があり、来訪者は立体駐車場から体育館内を通過して市民文化センターへ向かうこともできる。

同体育館にはスポーツ・健康づくりの中心拠点の役割に加え、文化施設としての市民文化センターとともにJR沼津駅からそれほど遠くない地に整備されたことによる地域活性化の推進が期待されているが、施設整備から間もないこともあり、今後どう取り組んでいくかが課題となっている。

<主な質疑応答>

Q 美津濃㈱との施設管理の契約金額は。

A 130億円である。

